

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

7月の輸出は低迷、7～9月期も精彩を欠く（7月貿易統計）

7月の輸出は、対アジアや対米を中心に低迷。米中経済の回復遅れを受けて、7～9月期の輸出は精彩を欠く見込み。輸入は、鉱物性燃料の輸入が一巡する一方、機械関連が増勢を強めており、全体として増勢を維持。輸出低迷も、資源価格下落等で輸入も伸びず、季節調整値の貿易赤字額は横ばい。

7月の輸出は低調

7月の貿易統計によると、輸出額（名目輸出）は前年比▲8.1%（6月▲2.3%）とマイナス幅が拡大、財務省が試算する季節調整値でも前月比▲1.1%（6月▲1.6%）と3ヶ月連続で減少した。7月は輸出物価の下落ペースは加速しておらず（6月▲4.3%、7月▲4.1%）、当社試算の実質値でも原系列が前年比▲4.8%（6月2.2%）と1月以来の前年割れ、季節調整値では前月比▲3.6%（6月0.6%）と明確に減少している。4～6月期の前期比3.3%増加から一転して、7月水準は4～6月期平均を3.1%下回っており、7～9月期の輸出は低調なスタートを切ったと言える。仕向け地別には対アジアや対米などを中心に、また品目別には輸送用機器の落ち込みが目立った。

資源価格の低下が輸入を押し下げ

輸入額（名目輸入）は7月に前年比2.1%（6月▲2.2%）と2ヶ月ぶりに増加した。財務省試算の季節調整値では前月比▲0.9%（6月▲6.3%）と2ヶ月連続で減少しているが、7月は輸入物価が前年比▲5.5%（6月▲3.3%）と大幅に下落しており、価格低下の影響が大きい。実質ベースでは原系列が前年比8.9%（6月1.3%）と伸びを高め、季節調整値も前月比1.9%（6月▲6.3%）と反転、増勢が続いていると判断される。品目別に見ると、鉱物性燃料の輸入が一服する一方で、輸送用機器など機械関連の輸入が増加した。

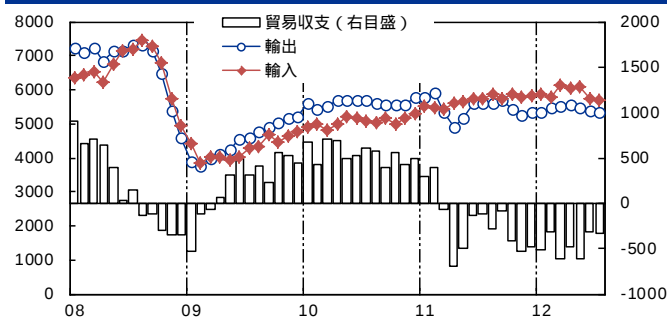
貿易赤字は6月対比横ばい

貿易収支は原系列で▲5,174億円と2ヶ月ぶりの赤字（6月は603億円の黒字）に転じた。一方、季節調整値では▲3,257億円（▲3,176億円）と17ヶ月連続の赤字ながら、赤字幅は6月からほぼ横ばいだった。7月の貿易赤字は、4～6月期平均を3割程度下回る。輸出は低調だったが、資源価格の下落等が寄与し輸入の伸びも抑制されているため、貿易赤字の拡大には至っていない。

米中経済の回復遅れにより7～9月期の輸出は精彩を欠く

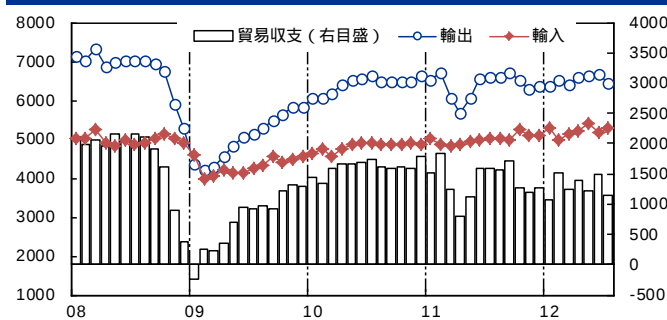
7月輸出の低迷度合いは事前予想を上回ったが（輸出額前年比の市場予想は▲2.9%、当社▲3.5%）、7～9月期全体で考えた場合、輸出の低調は想定範囲内である。

名目輸出入の推移（10億円、季調値）



（出所）財務省

実質輸出入の推移（10億円、季調値、2005年基準）



（出所）財務省、日本銀行

既に見通しレポート¹などで指摘したように、米中経済の回復が遅れているため、日本の輸出も悪影響を被り、7～9月期の輸出は精彩を欠くと予想される。なお、輸出の回復遅れを受けて、日本経済全体も7～9月期は前期比0.3%と4～6月期並みの成長ペースにとどまる。10～12月期には米中経済の回復を受けて、輸出は再び回復基調を強める見込みだが、エコカー補助金の終了で個人消費が落ち込むため、10～12月期の実質GDP成長率はマイナス圏への転落が予想される。

輸出の仕向け地別動向

当社試算の実質ベース・季節調整値にて仕向け地別動向を見ると、7月はほとんどの地域向けが低調だった。アジア向けが前月比▲3.3%（6月3.7%）、米国向けも▲4.1%（6月▲0.8%）と大幅に減少した。また、EU向けは1.2%と6月に▲9.9%と急減した後にも関わらず、小幅の増加にとどまっている。なお、アジア向けや米国向けの減少は後述するように4～6月期に大きく伸びた反動もある。

アジア向けは7月に前月比▲3.3%（6月3.7%）と減少した。中国向けが前月比▲4.5%（6月7.8%）、ASEAN向けは▲5.5%（6月2.9%）、NIEs向けも▲3.6%（6月2.3%）といずれの地域向けも減少している。中国向けでは電気機器の、ASEAN向けとNIEs向けでは輸送用機器の落ち込みが目立った。中国向けやASEAN向けは4～6月期に急増した反動も大きいと考えられるが、アジア域内最大の需要地である中国経済の回復が遅れていることもあり、7～9月期にアジア向け輸出の増勢が鈍ることは避けられないだろう。

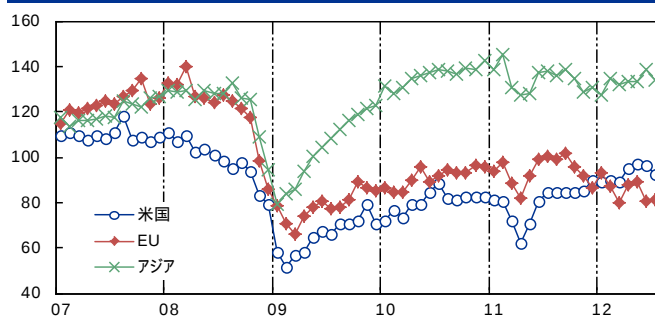
米国向けは4～6月期に前期比7.5%と大幅に増加した後、7月は前月比▲4.1%と落ち込んだ。一般機械（7月前月比▲8.8%）や電気機器（▲7.6%）の減少が目立つ。

EU向けは7月に前月比1.2%（6月▲9.9%）と2ヶ月ぶりに増加した。しかし、7月の水準は4～6月期を5%も下回っており、域内経済の低迷を受けて、低迷が続いている。

輸入の品目別動向

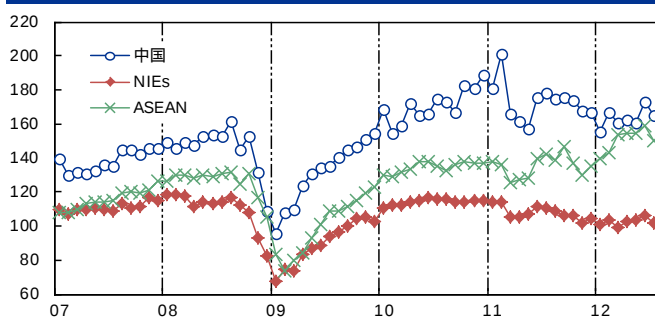
7月の実質輸入を品目別に見ると、鉱物性燃料が前月比▲5.6%（6月▲3.5%）と2ヶ月連続で減少する一方、輸送用機器（6月▲13.6%、7月19.8%）や一般機械（6月▲6.6%、7月4.7%）、電気機器（6月▲3.0%、7月2.2%）など機械関連の輸入が大きく伸びた。機械関連の輸入増加には、海外生産の進展や海外調達比率の上昇などが寄与していると考えられる。

地域別実質輸出の推移（2005年=100）



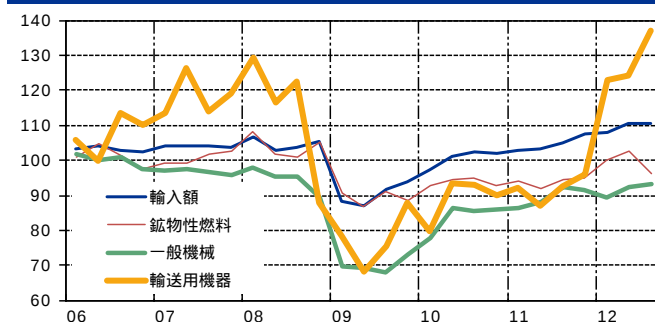
（出所）財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移（2005年=100）



（出所）財務省、日本銀行

実質輸入の推移（2005=100）



（出所）財務省、日本銀行

¹ 2012年8月14日付「日本経済情報 2012年8月号（経済見通し改訂と消費税率引き上げの影響）」を参照。